

モンゴル国での消化器疾患診療の人材育成とチーム医療の導入

①現地の状況やニーズなどの背景情報

モンゴル国は胃がん、食道がんの罹患率と死亡率が非常に高く、診療レベルの向上が必要とされている。専門医不足、卒後教育体制の不備、都市と地方の医療格差に加え、多職種連携によるチーム医療という概念にも乏しく、同国における医療問題は深刻である。

②事業目的

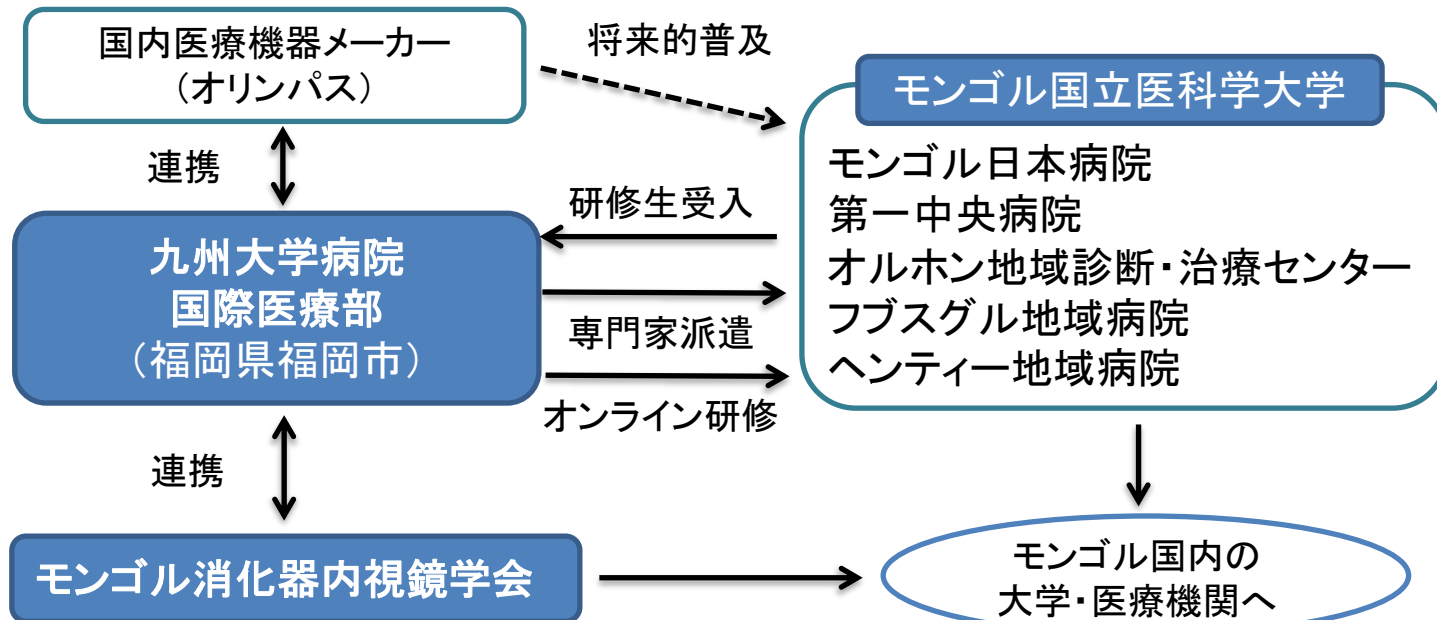
消化器疾患に関連する領域の医師育成とチーム医療の導入を目標とする。

③事業の目的

九州大学病院から消化器疾患に関する外科、内視鏡、腫瘍内科、病理、放射線科、医療技術、遠隔医療技術スタッフをモンゴル国立医科学大学と関連施設に派遣する。またモンゴル国立医科学大学関連病院から専門医師を受け入れ、直接的な医療指導、臨床現場やオンラインでの基本～高度な医療教育、チーム医療の有用性と重要性について認知・理解の向上を行うと同時に、同国が自発的に気軽に実施できる遠隔医療教育のための技術者養成も実施する。

④本事業で期待される成果、波及効果

消化器疾患に関わる多領域において、効果の高い実地指導と効率的・継続的な遠隔教育を組み合わせることで診療の底上げを行うことで研修員の自己評価レベルが向上し、モンゴル日本病院でチーム医療としての症例カンファレンスが5例以上実施され、遠隔医療教育を通じて知識・経験の強化と共有が行われる。これにより、モンゴル国民すべてにより良い健康生活を提供すると共に、日本の医療技術と医療機器が広くモンゴル国内へ導入されることを目指す。



<研修スケジュール>

8～12月 オンライン研修

- ・ 医療スタッフ) 診療・治療の講演、症例検討
- ・ 技術者) 遠隔会議システム・配信サポート

9, 11月 本邦研修(計12名)

- ・ 医療スタッフ) 臨床実地研修、医療機器管理の研修
- ・ 技術者) 情報通信技術の学習と実習

8, 9月 専門家派遣(計12名)

- ・ 医療スタッフ) 現地臨床指導、医療機器管理の指導、モンゴル内視鏡学会学術集会参加
- ・ 技術者) 現地視察、蒙国内外との遠隔接続指導